

令和7年度組織目標

部局名	教育委員会
不易の基本目標	【滋賀の教育大綱】 未来を拓く心豊かでたくましい人づくり
R7年度に特に注力する事項(目標)	○学ぶ力の向上、一人ひとりの能力を引き出す教育へ ～子どもも大人も「ワクワク」を大事に～ 目標： ・「子どもを主語に」、子どもの視点に立った見直しを進める ・子どもたちが個々の興味関心に即して主体的に取り組む「探究的な学び」の更なる推進、教員研修も含めた教育観のアップデート
	○「笑顔あふれる学校づくり」に向けた、教育現場の徹底した働き方改革の推進 目標： ・一人あたりの時間外在校等時間を前年度より減少 ・県立学校における申請事務の電子申請化
	○誰もが安心して学ぶことができる学校づくりの推進 目標： ・SC,SSWをはじめとした支援体制（チーム学校）の充実 ・学校と医療、福祉との連携による支援体制の強化 ・専門的な指導につながらない不登校児童生徒の減少
	○県立高校の将来を見据えた検討、魅力と活力ある県立高校づくりの推進 目標： ・社会環境や教育・子ども政策の変化等を踏まえ、県立高校の将来を見据えた検討の実施 ・生徒から選ばれる県立高校に向けた、ハード／ソフト両面からの魅力化の推進
	○特別支援学校の着実な整備と、特別支援教育の充実 目標： ・県立特別支援学校の新設および北大津養護学校の校舎増築等、教育環境整備の着実な推進 ・インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組の推進
	○CO2ネットゼロに向けた取組 目標： ・CO2ネットゼロに向けた高等学校の研究の取組深化 ・小中学校におけるCO2ネットゼロ推進の取組

所属名	教育総務課
R7年度に特に注力する事項(目標)	○安全・安心で快適な教育環境の整備 目標： ・県立高等学校の将来を見据えながら、県立学校施設の老朽化対策の検討を行い、次期「県有施設更新・改修方針」における更新・改修事業として事業化する。 ・守山市に新設する特別支援学校の用地取得、造成設計を着実に進めるとともに、北大津養護学校の校舎増築工事に着工する。
	○生きる力を育むICTを活用した教育の推進 目標： ・次期滋賀県学校教育情報化推進計画について、子どもや関係者の意見を聴いて、今年度中に策定する。 ・授業にICTを活用して指導できる教員の割合の向上 R5年度：高等学校 82.6% 特別支援学校 61.3%
	○【見直し・効率化】教育行政のDX推進 目標： ・県立学校が発行する各種証明書発行事務について、電子申請・電子収納を実施 ・奨学のための給付金事業において、申請者（生徒の保護者）からの電子申請を試行実施

所属名	教職員課
R7年度に特に注力する事項(目標)	○子どもも教職員も笑顔あふれる学校づくりの推進 (「多様な人材の活用」と「学校業務のさらなる見直しと効率化」) ・一人あたりの時間外在校等時間を前年度(39.8h)より減少させる。 ・「やりがいを感じる」、「職場は働きやすい」と回答する教職員の割合を現 目標： 行計画より増やす。 (現行計画：「やりがいがある」77.0%、「職場は働きやすい」68.2%) ・新たな「学校における働き方改革取組計画」の策定
	○本県の教員を目指す優秀な人材の確保 ・ファーストステップ支援事業参加者のうち講師登録者数の割合を5割とす 目標： る。 ・教員採用選考試験の受験者を前年度(1690人)より増加させる。 ・専門職にふさわしい教師の処遇の実現
	○メンタルヘルス対策の充実、教職員の心身の健康の確保 ・ストレスチェックを実施し、教職員本人にストレス状況の気づきを促す。 目標： ・ストレスチェックの集団分析結果を活用した教職員の職場環境改善取組の実 施率100%を目指す。
	○【見直し・効率化】教員免許申請事務および収納の電子化 目標： ・令和7年10月から電子申請および電子納付を実施する。

所属名	高校教育課
R7年度に特に注力する事項(目標)	○新しい入学者選抜の実施 目標： ・新制度を用いた令和８年度県立高等学校入学者選抜について、中学校や市町教育委員会、県立高等学校と連携しながら着実に実施し、中学生が明確な目的や意欲を持って日々の学習や活動に取り組むことにつながる制度を確立する。
	○グローバル人材の育成 目標： ・生徒が自ら計画した探究活動を伴う海外留学を行う海外留学支援事業や、国際バカロレア推進事業、グローバルユース事業などの充実・発展を図ること で、グローバルな視点で地域の課題解決に向けて主体的に取り組む人材を育成する。
	○学校の特色を生かした探究的な学びの充実 目標： ・「学びの最適化・高度化推進拠点形成事業」により授業改善を進めるとともに、「高校生による【しが】学びの祭典」において、研究指定校の、自校の特色を活かした探究活動を県内に幅広く発信することで、学校の特色化の推進や探究的な学びの質の向上と充実を図る。
	○県立高等学校の将来を見据えた検討、魅力と活力ある県立高等学校づくりの推進 目標： 今後１５年先の生徒数の減少が見込まれる中、県立高等学校について現在の規模を維持することが困難になることが予想されることから、今後とも地域における県立高等学校の多面的な機能をどのように発揮していくのか、また、魅力と活力ある学校づくりに向けてどのように地域との協働を図っていくのか等について、子どもたちや保護者、教育関係者、市町、地域等の関係者の意見を聞きながら、県立高等学校の将来を見据えた検討を進める。
	○【見直し・効率化】県立高等学校入学者出願事務 目標： ・令和８年度県立高等学校入学者選抜において、Web出願を導入することで、県民サービスの向上と教職員の働き方改革を推進する。

所属名	幼小中教育課
R7年度に特に注力する事項(目標)	○第Ⅲ期学ぶ力向上滋賀プランの推進 ・各教科等の特質に応じた言語活動の充実や学校図書館の活用を図る。 －「研究指定校の取組を参考に取組を進めている。」 - と肯定的に回答した学校の割合80%以上 目標： ・学習活動における、効果的な場面での1人1台端末の活用を図る。 －「コンピュータやタブレットなどのICT機器を使うことは、学習の役に立つと思う。」と回答した児童生徒の割合の増加 (令和6年度 小学校：68.0%、中学校：58.7%)
	○不登校の状態にある子どもへの支援 目標： ・不登校の状態にある子どもについて、支援につながっていない子どもをゼロにする。 - しがの学びと居場所の保障プラン関連事業(406,586千円) －専門的な相談や指導につながっていない児童生徒の割合の減少 (令和5年度 公立小中1,912人/5,131人=37.3%)
	○幼児期教育センター事業の推進 目標： ・学びのアンケート学校質問において「園と検討・開発した『架け橋期のカリキュラム』を実施し、検証を行っている」「作成した『架け橋期のカリキュラム』について、園と毎年度見直しを行っている」小学校の割合の増加。(令和6年度 31.2%)
	○【見直し・効率化】ICTの活用による業務の効率化 目標： ・生成AI等を活用した、要約・議事録案の作成 ・協議会・研修等のオンライン開催や課内協議等のペーパーレス化の推進

所属名	特別支援教育課
R7年度に特に注力する事項(目標)	○滋賀のめざす特別支援教育ビジョン（実施プラン）による取組の総括と次期計画の策定
	目標： ・「滋賀のめざす特別支援教育ビジョン（実施プラン）」（平成28～令和7年度）の取組を総括するとともに、令和8年度以降の施策を見据えつつ、現状や課題等を踏まえて次期計画の策定を行う。
	○インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組の推進
	目標： ・副籍（副次的な学籍）制度の中学生段階での試行を開始するとともに、特別支援学校「分教室」設置に関する研究を推進する。 ・県立高等学校における特別支援教育の充実のため、高等養護学校との連携強化による体制づくりを県内全域に拡大する。
	○特別支援学校におけるキャリア教育の推進
	目標： ・小学部・中学部の早期の段階から、地域との協働活動を通じたキャリア教育の推進を図る。 特別支援学校高等部卒業生の就職実現率 90%以上
	○県立特別支援学校の新設および教育環境整備の推進
	目標： ・県立特別支援学校の新設や北大津養護学校の校舎増築等の教育環境整備について、教育総務課やその他の関係課、各学校等と連携しつつ、着実な推進を図る。
	○【見直し・効率化】ペーパーレス・ペーパーストックレス化の推進
	目標： ・グループウェアの活用による課内協議等のさらなるペーパーレス化を図るとともに、課内の書棚やファイルサーバ内の整理を推進する。

所属名	人権教育課
R7年度に特に注力する事項(目標)	○教職員の人権感覚・指導力の向上 目標： ・各校における重点テーマ研修（令和7年度は「人権の視点から子どもへの関わりを振り返る～校園所における日常生活の場面から～」）の実施率【年度末までに100%を目指す】
	○人権についての正しい理解と認識を深める学びの充実 目標： ・人権教育における「参加・協力・体験」的な学習の実施校の割合【全校種で100%を目指す】 ・人権教育における「参加・協力・体験」的な学習の充実
	○子どもの「自尊感情」を育む取組の推進 目標： ・自尊感情に関する「いしずえアンケート」（年間2回、6月・12月実施）において、肯定的に回答する児童生徒の割合の向上を目指す。
	○【見直し・効率化】ペーパー（ストック）レス化の推進 目標： ・会議等におけるペーパーレス化 ・紙決裁・紙供覧の更なる縮減 ・執務室内の文書の整理（引継または廃棄）

所属名	生涯学習課	
R7年度に特に注力する事項(目標)	○「県第5次子ども読書活動推進計画」に基づく「こども としょかん」の取組推進	
	目標：	・「学校図書館サポーター養成講座」修了者割合 90%以上（R6 80%） ・学校図書館への学校司書配置に向け市町への修了者情報の提供
	目標：	・こども としょかんサポートセンターによる学校図書館の活用にかかる指導・助言を行う公立小中学校数 104校（3年間で全校訪問）（R6－（新規）） ・学校図書館活用好事例の把握、横展開の促進
	○ 地域とともにある学校づくりに向けた持続可能な取組の推進	
	目標：	・学校運営協議会を設置する公立学校の割合 77%（R6 74%） 取組の質的向上をはかる研修会により、参加者の満足度80%以上をめざす。
	○ 地域の課題解決につながる社会教育の推進	
	目標：	・社会教育士の称号付与者数累計67人（R6 62人） 研修会でのファシリテート等、社会教育士の活躍の機会と場の提供。
	目標：	・家庭教育支援チームを組織する市町数 13市町（R6 11市町） 全市町を対象に支援チームの拡大、充実のためのニーズに応じた訪問、研修会の実施
	○ 県立図書館のあり方検討の推進（図書館と連携して実施）	
	目標：	・滋賀県立図書館のサービス向上に向け、図書館を巡る環境の変化や課題、国における検討状況も踏まえ、中長期的な指針を策定する。 ・令和7年度は主に現状や課題を調査・整理し、方向性や取組内容検討のための基礎情報を得る。
	○【見直し・効率化】ペーパレス化、ペーパストックレス化とともに、DXの活用による業務効率化を推進	
	目標：	・保有紙資料の削減、所属の用紙使用量（購入量）の前年度比減 ・AIを活用した資料作成支援やリモート会議、オンデマンド配信の積極的な活用

所属名	保健体育課
R7年度に特に注力する事項(目標)	○学校体育を中心とした運動の習慣化および中学校の部活動の地域連携と地域クラブ活動への移行 目標： 部活動指導員や地域クラブ活動等の地域指導を受けている中学生(2年生) 現況：4,756人 ⇒ 6,000人
	○令和8年度インターハイ（夢へ躍進 青春の夏 近畿総体 2026）に向けた着実な準備 目標： 令和8年度インターハイが、安心・安全な大会、「する」「みる」「ささえる」形で関わる全ての高校生等が、様々な経験を通じて「学び」を得る大会になることを目指し、準備を加速する。 すべての県立高校等に「学校推進委員会」を設置
	○学校安全の推進 目標： 高校生のヘルメット着用を警察本部等と連携して推進し、生徒の交通安全向上を図る。 ヘルメット着用推進アンバサダー（高校生広報大使）等 50名 自転車乗車時のヘルメット着用 5%以上（R6 3.1%）
	○学校保健の機能強化 目標： 子どもの心の健康課題等への理解を含め、養護教諭をはじめ多職種で連携して対応できるよう教職員の対応力を高める。 ●研修後のフォローアップにおいて「活用できた」50% ●「知っているようで知らないこどものこころとからだ」のリーフレットを学校内で周知した県立学校 100%
	○【見直し・効率化】会議や研修実施におけるICTの活用 目標： ・会議等のオンライン開催や開催後アンケート実施にICTを活用し効率化を図る。

所属名	図書館
R7年度に特に注力する事項(目標)	○来館利用者の満足度の向上 目標： ・利用者アンケートにおいて、来館目的の達成度(満足度)を「満足」「やや満足」とした回答者の割合 90% 司書による利用支援の周知や館内掲示の工夫により、来館者が円滑に目的を達成できるよう取り組む。
	○市町立図書館に対する支援の充実 目標： ・県立図書館による情報提供に対する市町立図書館の満足度 94% 司書巡回時等において県内他館や全国の図書館状況に関する情報交換・提供を積極的に行う。
	○県立図書館のあり方検討の推進（生涯学習課と連携して実施） 目標： ・滋賀県立図書館のサービス向上に向け、図書館をめぐる環境の変化や課題、国における検討状況も踏まえ、中長期的な指針を策定する。 ・令和7年度は主に現状や課題を調査・整理し、方向性や取組内容検討のための基礎情報を得る。
	○【見直し・効率化】職員間の情報共有体制の強化 目標： ・開館前の時間帯を活用し、係を横断した会議や研修の実施体制を構築する